

みんぱく友の会午餐会

開催年月	回	講師	タイトル	参加者数	開催場所
1978年11月16日	1	梅棹忠夫	千里国際文化都市の構想	40	大阪
1979年1月22日	2	梅棹忠夫	中東の民族事情	29	大阪
1979年3月15日	3	石井米雄	東南アジアを見る眼	29	大阪
1979年3月29日	4	梅棹忠夫	中東の諸民族	38	東京
1979年5月17日	5	加藤九祚	ソ連の民族事情	26	大阪
1979年7月19日	6	君島久子	中国の諸民族とその生活	30	大阪
1979年9月27日	7	祖父江孝男	アメリカ人―変貌する民族意識	30	大阪
1979年10月5日	8	梅棹忠夫	国立民族学博物館の非公開部分	34	東京
1979年12月11日	9	石毛直道	太平洋の諸民族	31	大阪
1980年1月17日	10	梅棹忠夫	四川・雲南・貴州を旅して	44	大阪
1980年1月22日	11	梅棹忠夫	四川・雲南・貴州を旅して	40	東京
1980年3月13日	12	米山俊直	アフリカの民族事情	31	大阪
1980年5月14日	13	梅棹忠夫	オーストラリアの民族事情	31	東京
1980年5月15日	14	梅棹忠夫	オーストラリアの民族事情	41	大阪
1980年7月24日	15	和田祐一	ヨーロッパの言語事情	29	大阪
1980年10月9日	16	小谷凱宣	極北の民族事情	37	大阪
1980年12月2日	17	梅棹忠夫	シルクロードの民族事情	26	大阪
1980年12月7日	18	梅棹忠夫	シルクロードの民族事情	29	東京
1981年1月29日	19	松原正毅	トルコの民族事情	34	大阪
1981年3月16日	20	大給近達	ブラジルの移民事情	27	大阪
1981年5月21日	21	端 信行	西アフリカの民族事情	28	大阪
1981年5月26日	22	大給近達	ブラジルの移民事情	22	東京
1981年8月25日	23	谷 泰	日本にとってのヨーロッパ	52	大阪
1981年10月5日	24	梅棹忠夫	35年ぶりの内蒙古―私の感傷旅行	35	東京
1981年10月6日	25	梅棹忠夫	35年ぶりの内蒙古―私の感傷旅行	43	大阪
1981年11月10日	26	梅棹忠夫	南半球の島国・ニュージーランド	26	東京
1981年11月12日	27	梅棹忠夫	南半球の島国・ニュージーランド	36	大阪
1982年1月28日	28	片倉もところ	アラブとイラン	46	大阪
1982年3月25日	29	栗田靖之	大国にはさまれた小国 ブータンの民族事情	27	大阪
1982年4月13日	30	梅棹忠夫	韓国・済州島を訪ねて	28	東京
1982年5月11日	31	梅棹忠夫	言語と世界	29	京都
1982年5月27日	32	梅棹忠夫	韓国・済州島を訪ねて	33	大阪
1982年8月24日	33	梅棹忠夫	モンゴル人民共和国を訪れて	46	大阪
1982年8月27日	34	梅棹忠夫	モンゴル人民共和国を訪れて	25	東京
1982年10月25日	35	梅棹忠夫	中国の西端・カシュガルパミールを旅して	26	東京

民ぱく友の会午餐会

開催年月	回	講師	タイトル	参加者数	開催場所
1982年10月28日	36	梅棹忠夫	中国の西端・カシュガルパミールを旅して	37	大阪
1982年12月8日	37	大丸 弘	フランスと日本の若者—反抗の生態—	33	大阪
1983年2月17日	38	佐々木高明	日本文化のふるさとをたずねて—中国・雲南の旅から	28	大阪
1983年2月18日	39	佐々木高明	日本文化のふるさとをたずねて—中国・雲南の旅から	27	東京
1983年2月25日	40	梅棹忠夫	世界を見る眼	23	京都
1983年4月28日	41	井狩彌介	インドの民族事情	26	大阪
1983年5月11日	42	杉田繁治	民博の情報処理—コンピューターでどこまでできるか	33	東京
1983年6月7日	43	杉田繁治	民博の情報処理—コンピューターでどこまでできるか	31	大阪
1983年7月13日	44	杉田繁治	民博の情報処理—コンピューターでどこまでできるか	26	京都
1983年8月30日	45	梅棹忠夫	ブラックホールからの使者—日本・フランス—	30	東京
1983年9月1日	46	梅棹忠夫	ブラックホールからの使者—日本・フランス—	49	大阪
1983年11月17日	47	梅棹忠夫	チベットの現状	37	大阪
1983年11月18日	48	梅棹忠夫	ブラックホールからの使者—日本・フランス—	24	京都
1983年11月22日	49	梅棹忠夫	チベットの現状	32	東京
1984年3月23日	50	ヨーゼフ・クライナー	ドイツからみた日本 日本からみたドイツ	40	大阪
1984年6月12日	51	石毛直道	スシと塩辛の民族学	32	東京
1984年6月27日	52	石毛直道	白血病と日本民族起源論	32	大阪
1984年6月28日	53	石毛直道	新酒飯論	24	京都
1984年9月25日	54	端 信行	アフリカの民族事情—いま、アフリカをどう見るか—	31	東京
1985年1月24日	55	小山修三	見えてきたオーストラリア—オーストラリア社会の構造—	23	東京
1985年1月31日	56	小山修三	見えてきたオーストラリア—オーストラリア社会の構造—	55	大阪
1985年3月25日	57	栗田靖之	インドの民族事情—インディラ・ガンジーからラジブ・ガンジーへ	26	大阪
1984年8月31日	特	梅棹忠夫	現代世界と日本文明(続)—コレージュ・ド・フランスの講義より—	60	大阪
1985年4月4日	58	梅棹忠夫	民族学から文明学へ	34	京都
1985年4月9日	59	栗田靖之	インドの民族事情—インディラ・ガンジーからラジブ・ガンジーへ	21	東京
1985年6月3日	60	守屋 毅	欧米人の日本発見—日米文化交渉史のひとこま	45	大阪
1985年9月10日	61	梅棹忠夫	現代西南中国の少数民族	20	京都
1985年9月13日	62	梅棹忠夫	現代西南中国の少数民族	28	東京
1985年9月17日	63	梅棹忠夫	現代西南中国の少数民族	44	大阪
1986年1月29日	64	加藤九祚	日本とロシアのつきあい300年	56	大阪
1986年2月3日	65	加藤九祚	日本とロシアのつきあい300年	25	東京
1986年4月3日	66	佐々木高明	日本文化のルーツを求めて	63	大阪
1986年9月16日	67	友枝啓泰	現代アンデス諸国の経済	14	東京
1986年9月19日	68	友枝啓泰	現代アンデス諸国の経済	36	大阪
1986年12月11日	69	野村雅一	日本人のしぐさと身ぶり	45	大阪

みんなく友の会午餐会

開催年月	回	講師	タイトル	参加者数	開催場所
1987年4月10日	70	園田英弘	日本文化の国際化—国際日本文化研究センターの創設に際して	59	大阪
1987年9月4日	71	中牧弘允	新宗教事情—神々の国際戦略	46	大阪
1987年9月10日	72	小山修三	縄文の民族学—現代日本文化のツール	26	東京
1987年12月2日	73	祖父江孝男	日本人はどう変わったのか	72	大阪
1988年2月19日	74	石森秀三	旅の比較文明学—観光旅行にみる日本人論	53	大阪
1988年6月10日	75	石毛直道	日本人の勤労観—遊びの中の仕事—パチンコは永遠か	40	大阪
1988年9月9日	76	松澤員子	躍進する台湾—文化史から見た発展の背景	36	大阪
1988年10月20日	77	ヨーゼフ・クライナー	国際社会における西ドイツの選択—ドイツ日本研究所の設立	15	東京
1988年11月28日	78	杉本尚次	都市とスタジアム—野球に見る日米都市文化比較	52	大阪
1989年2月14日	79	米山俊直	アフリカの未来と日本	61	大阪
1989年4月11日	80	守屋 毅	情報産業社会と都市の運命—アメリカの都市をめぐる文明学的考察から	62	大阪
1989年6月20日	81	江口一久	国際都市の諸問題—民族モザイクの都市トロントに学ぶ	54	大阪
1989年11月21日	82	庄司博史	ソ連の民族政策—エストニア共和国の民族戦線運動から	50	大阪
1990年1月30日	83	端 信行	都市の文明学—24時間都市論	55	大阪
1990年5月8日	84	石森秀三	国際観光からみた世界と日本	51	大阪
1990年5月9日	85	石森秀三	国際観光からみた世界と日本	23	東京
1990年7月6日	86	栗田靖之	文化で生き抜く都市のゆくえ	43	大阪
1990年7月12日	87	栗田靖之	文化で生き抜く都市のゆくえ	19	東京
1990年10月25日	88	大塚和夫	アラブ世界の虫瞰図—フィールドワークの視点から	49	大阪
1990年10月25日	89	福井勝義	文化人類学から見た開発援助のありかた	40	大阪
1991年1月29日	90	藤井龍彦	多民族国家・ペルーのフジモリ大統領	51	大阪
1991年3月8日	91	角山 榮	都市生活の文化ネットワーク	44	不明
1991年6月28日	92	櫻井哲男	韓国にみる朝鮮半島の未来	49	大阪
1991年10月29日	93	加藤九祚	歴史と民族からみたソ連	61	大阪
1992年3月26日	94	田村克己	アジアの社会主義国はいま	41	大阪
1992年5月19日	95	吉田集而	人類史におけるニューギニアの位置	52	大阪
1992年6月23日	96	秋道智彌	いま魚と海を考える—海洋人類学の視点から	56	大阪
1992年9月29日	97	小長谷有紀	変貌するモンゴル—遊牧世界からの脱皮	48	大阪
1992年11月18日	98	小川 了	カーボベルデをご存じですか—西アフリカの島国と日本	39	大阪
1993年1月21日	99	熊倉功夫	日本人と遊び—茶の湯からみた日本文化	58	大阪
1993年2月25日	100	梅棹忠夫・米山俊直	世界をどうみるか(対談)	120	大阪
1993年4月22日	101	佐々木高明	照葉樹林文化と日本	65	大阪
1993年6月18日	102	大森康宏	日本から見たフランス人 フランスから見た日本人	53	大阪
1993年8月24日	103	栗本英生	国家と民族—北東アフリカの民族紛争	54	大阪
1993年10月19日	104	小松和彦	都市づくりのうらおもて—闇と妖怪が語るもの	52	大阪

みんなく友の会午餐会

開催年月	回	講師	タイトル	参加者数	開催場所
1993年12月7日	105	佐原 真	人はなぜ戦いをくり返すのか—考古学からみた戦争	58	大阪
1994年2月8日	106	横山俊夫	安定社会を生きる—三百年前の日本の知恵から	67	大阪
1994年4月7日	107	岡田節人	あらためて”さまざまな生きもの”に目を向ける	55	大阪
1994年6月14日	108	石毛直道	家庭と食卓	67	大阪
1994年8月25日	109	立川武蔵	ヨーガと瞑想—心と体のエネルギー・システム	49	大阪
1994年10月16日	110	朝倉敏夫	異質か同質か—韓国義理人情模様	45	大阪
1994年12月19日	111	熊倉功夫	日本文化にみる春の迎えかた—初盆から花見まで	73	大阪
1995年3月10日	112	中牧弘允	会社とサラリーマン—その文化人類学的考察	54	大阪
1995年4月28日	113	藤田和夫	阪神大震災におもう—我々はヒマラヤの上に住んでいる	78	大阪
1995年6月13日	114	高田公理	戦後50年目の世相—到来する予測不能な情報社会	55	大阪
1995年9月28日	115	石森秀三	アジア太平洋諸国と観光革命—観光人類学の視点から	64	大阪
1995年11月6日	116	松原正毅	モンゴルの現在—再遊牧化の流れ	49	大阪
1996年1月23日	117	吉田集而	エクスタシー 風呂と酒と……	67	大阪
1996年3月14日	118	久保正敏	流行歌でつづる昭和史—コンピュータ民族学の分析から	49	大阪
1995年4月28日	119	藤田和夫	阪神大震災におもう—我々はヒマラヤの上に住んでいる—	78	大阪
1995年6月13日	120	高田公理	戦後50年目の世相—到来する予測不能な情報社会—	55	大阪
1995年9月28日	121	石森秀三	アジア太平洋諸国と観光革命—観光人類学の観点から—	64	大阪
1995年11月6日	122	松原正毅	モンゴルの現在—再遊牧化の流れ—	49	大阪
1996年1月23日	123	吉田集而	エクスタシー 風呂と酒と……	67	大阪
1996年3月14日	124	久保正敏	流行歌でつづる昭和史—コンピュータ民族学の分析から—	49	大阪
1996年5月13日	125	ヨーゼフ・クライナー	ヨーロッパからみた日本文明—江戸時代から現代まで—	67	大阪
1996年7月16日	126	小山修三	日本文明と青森三内丸山遺跡	73	大阪
1996年10月3日	127	近藤雅樹	洗濯機の発明—人が創造を生む過程—	45	大阪
1996年11月19日	128	大津留智恵子	大統領選挙に見るアメリカ社会の方向性	47	大阪
1997年2月14日	129	別府春海	グローバル・ジャパン—日本の外にある日本—	53	大阪
1997年5月27日	130	石毛直道	同文同種という誤解—東アジアを見る目	58	大阪
1997年8月26日	131	白杵 陽	民族紛争を考える—パレスチナとイスラエルのはざまで	47	大阪
1997年10月14日	132	吉田憲司	民族学の最前線—異文化へのまなざしを問いなおす	52	大阪
1997年12月17日	133	藤井龍彦	ペルーはいま—フジモリ大統領の7年間	42	大阪
1998年4月14日	134	押川文子	現代インド社会とイギリス—京セラ文庫「英国議会資料」創設に寄せて—	46	大阪
1998年6月18日	135	フレルバートル、小長谷有紀	草原の国・モンゴルの未来	73	大阪
1998年8月20日	136	杉島敬志	スハルト政権後期の地方社会からみたインドネシアの実像	41	大阪
1998年10月15日	137	野村雅一	顔を考える—顔学とは何か	42	大阪
1998年12月17日	138	朝倉敏夫、高・全・恵星	韓国を知るキーワード・両班(ヤンバン)	48	大阪
1999年2月25日	139	林 勲男	南太平洋の文化遺産—ジョージブラウン・コレクションの成り立ち—	38	大阪

みんなく友の会午餐会

開催年月	回	講師	タイトル	参加者数	開催場所
1999年4月15日	140	大森康弘	デジタル映像時代の映像と文化	51	大阪
1999年6月15日	141	園田英弘	昔・武士(サムライ)、今・官僚(サラリーマン)—江戸期に学ぶ日本のリストラ	47	大阪
1999年8月31日	142	佐伯啓思	不景気風はどこから—社会ムードの現実の間	42	大阪
1999年10月26日	143	井野瀬久美恵	よみがえるイギリス—“世紀の越え方”を歴史に読む	34	大阪
2000年1月28日	144	白杵 陽	中東イスラム世界の行方	36	大阪
2000年5月11日	145	杉田繁治	IT(情報技術)革命のゆくえ	42	大阪
2000年7月31日	146	庄司博史	多民族化する関西	34	大阪
2000年10月18日	147	熊倉功夫	日本人のマナー	35	大阪
2000年12月12日	148	新免光比呂	宗教から見た東欧の紛争と人々	35	大阪
2001年2月8日	149	石森秀三	観光文明学からみた関西の未来	36	大阪
2001年5月18日	150	瀬戸口烈司	発明発見は博物館から—京都大学総合博物館の誕生—	45	大阪
2001年7月17日	151	小山修三	近代文明と森の未来	42	大阪
2001年8月28日	152	石黒マリーローズ	キリスト教文化の常識	30	大阪
2001年11月6日	153	中嶋嶺雄	21世紀の中国像—天安門事件から北京オリンピックまで	38	大阪
2002年2月28日	154	大津留智恵子	アメリカの自己像を問いなおす	27	大阪
2002年5月28日	155	立川武蔵	多文化時代の日本宗教 般若心経から考える	38	大阪
2002年8月6日	156	大森康宏	フランからユーロへ フランスからみたEU展望	32	大阪
2002年10月17日	157	秋道智彌	文化と環境—21世紀の人類の選択	27	大阪
2003年2月7日	158	袴田茂樹	プーチン大統領のロシアと日本	37	大阪
2003年5月13日	159	松園万亀雄	性研究の現代的意義	48	大阪
2003年7月18日	160	片倉邦雄	イラク戦争の波紋と日本の対応	28	大阪
2003年9月30日	161	須藤健一	日本に寄せる21世紀の荒波—太平洋諸国の移住と環境戦略	26	大阪
2003年11月13日	162	村田晃嗣	これからの安全保障と日米関係の展望	26	大阪
2004年1月27日	163	鷺田清一	エイジレス社会？	34	大阪
2004年3月11日	164	庄司博史	多民族化する日本のゆくえ	26	大阪
2004年5月25日	165	山本紀夫	ジャガイモと文明—穀類中心の歴史観をくつがえす	25	大阪
2004年7月16日	166	佐々木高明	南からの日本文化—新・海上の道を考える	30	大阪
2004年9月24日	167	五百旗頭真	世界を動かす米大統領選挙のゆくえ	34	大阪
2004年11月5日	168	深井晃子	ブランドと世界戦略—パリのルイ・ヴィトン为例にして	27	大阪
2005年1月18日	169	端 信行	文化復興の10年	24	大阪
2005年3月9日	170	田中雅一	父の暴力・母の暴力	20	大阪
2005年5月18日	171	川北 稔	イギリスが迫られる苦渋の決断	24	大阪
2005年7月14日	172	杉本良男	現代インドの躍動	29	大阪
2005年9月26日	173	中西 寛	東アジアとのつきあい方—幻想と情念を避けて	31	大阪
2005年11月11日	174	中牧弘允	台頭する新興国家ブラジル	25	大阪

みんぱく友の会午餐会

開催年月	回	講師	タイトル	参加者数	開催場所
2006年1月27日	175	杉本尚次	燃えるスタジアム—都市型エンターテインメントのゆくえ	24	大阪
2006年3月9日	176	山折哲雄	不安な時代と無常観	33	大阪
2006年5月26日	177	佐々木史郎	極東ロシア 発展の可能性	18	大阪
2006年7月14日	178	瀬川昌久	人類学者が見た中国社会	24	大阪
2006年9月29日	179	池内 恵	フランス理想主義の危機とヨーロッパ・ムスリムの将来	23	大阪
2006年11月7日	180	陳 天璽	グローバル化時代における国籍	22	大阪
2007年2月1日	181	石井米雄	多文化主義と日本の将来	32	大阪
2007年3月22日	182	神崎宣武	旅の文明論	25	大阪
2007年5月9日	183	大森康宏	特別展「聖地・巡礼」関連 映像と文化の新天地へ向けて	23	大阪
2007年7月12日	184	佐々木利和	日本人は北の大地をどう見たか	19	大阪
2007年9月27日	185	三尾 稔	ネットワーク社会インドのゆくえ	26	大阪
2007年11月28日	186	小山修三、端信行	国立民族学博物館友の会発足30周年記念 学問に生きる—梅棹忠夫の学問世界を語る	26	大阪
2008年1月29日	187	松澤員子	台湾—民族としてのアイデンティティとその葛藤	23	大阪
2008年3月17日	188	吉田憲司	「文化をつくる装置」のいま—文明の転換期に博物館を問う	23	大阪
2008年5月15日	189	小山修三	森を焼く人びと—地球の未来を考える	26	大阪
2008年7月23日	190	田村克己	ビルマ/ミャンマーの30年—見えない国のこれまでとこれから	23	大阪
2008年9月4日	191	南真木人	これを「革命」というのか—ネパールの情勢をよむ	22	大阪
2008年11月6日	192	高田公理	嗜好品と人類文明史—歴史を動かしてきた「嗜み」の文化	20	大阪
2009年1月22日	193	岸上伸啓	地球温暖化と極北開発—国家主権と多国籍企業、先住民の権利	14	大阪
2009年3月4日	194	上田正昭	国、民族をこえた人と人の交わり—21世紀と国際交流	27	大阪
2009年7月15日	195	伏木 亨	「やみつき」になる現代のおいしさ—伝統の味と相克	27	大阪
2009年9月15日	196	井上章一	日本史を世界の中で、関西人として考える	20	大阪
2009年11月19日	197	須藤健一	国立民族学博物館長が語る—「みんぱくルネサンス」をめざして	25	大阪
2009年12月22日	198	上田 篤	西郷隆盛がかんがえた「小さな日本」とは？	22	大阪
2010年1月20日	199	松原正毅	「世界の現在と行方」①民族紛争の現在	18	大阪
2010年3月3日	200	古谷大輔	「世界の現在と行方」②戦争・国家・民族—ヨーロッパの地平から	19	大阪
2010年5月26日	201	鈴木七美	「心地よい生」を考える	19	大阪
2010年7月22日	202	山根 聡	「世界の現在と行方」③紛争の連鎖を断ち切るために—アフガニスタン・パキスタン	25	大阪
2010年9月16日	203	濱下武史	アジアにおけるひとのネットワーク・文化のネットワーク	14	大阪
2010年11月16日	204	高階美行	「世界の現在と行方」④国家は成立するべきなのか	12	大阪
2011年1月27日	205	関 雄二	古代からみるリーダーシップ	15	大阪
2015年7月17日	206	池内 恵	イスラーム国の来歴と中東の未来	23	大阪
2016年10月13日	207	石毛直道	なぜ日本食が世界にひろがったか	29	大阪
2017年7月6日	208	吉田憲司	文明の転換点における人類学	20	大阪
2018年7月12日	209	中牧弘允	人類がつくりだした巨大な祭典、万国博覧会—知的貢献の可能性をめぐって	21	大阪

みんぱく友の会午餐会

開催年月	回	講師	タイトル	参加者数	開催場所
2019年7月26日	210	蓑 豊、吉田憲司	未来志向のミュージアム—都市(まち)のシンボルとして	22	大阪
2023年7月12日	211	熊倉功夫	茶の湯と社交	19	大阪